ドッジボール大会競技説明書

◆参加チーム数などにより、試合形式等を変更することがあります◆

１．コートは３コートで、Ａ・Ｂ・Ｃ としま す。（Ａ・Ｂは、低学年用　Ｃは、高学年用）

２．**コートの広さは、低学年　８ｍ×４辺×２。　高学年　１０ｍ×４辺×２。**

３．審判員は、各コート３名以上で編成します。
（主審１名・副審２名）（主審はタイムキーパー係と兼務できる）
・各コートの備品は、ストップウォッチ１個・旗２本・対戦表・審判員割当表・競技説明
・主審はコート中央線、副審はコート後方線対角線上に立つ。タイム係は主審の近辺にいること。

４．試合は、トーナメント方式とする。
・１試合は、前半・後半各７分。ハーフタイム２分とする。
・キャプテンが審議を申し入れた場合や、けがや事故が発生した時以外は時間を止めず、続行する。

５．選手１０名のうち内野８名、外野２名を配置した状態で試合を開始します。
・選手が１０名に満たないチームは、相手チームと相談し、了解のもとで試合を開始する。
（１０名に満たない場合も、２名は外野）
・試合開始ボールは、各チームキャプテン同士のジャンケンにより決定する。

６．選手の交代はハーフタイム時のみに行い、前半の状態で後半を開始してください。
コートチェンジは行いません。
・内野の選手をコート中央線により整列させてください。
・外野の選手をコート後方線に整列させてください。
・選手交代について
◎交 代 可　・内野選手 ⇔ 補欠選手　・外野選手 ⇔ 補欠選手
・選手が試合継続不可能な場合（ケガなどをした時）

◎交代不可　・内野選手 → 外野選手　・外野選手 → 内野選手
・内野、外野の選手の人数が、前半戦終了後と同一であることを確認後、後半の試合を開始してください。
・後半戦開始ボールは、前半戦終了時にボールを持っていたチームからの開始とする。

７．競技終了後、内野に残っている選手を１人１点と数え、そのチームの得点とし､得点の多いチームを勝ちとする。
・同点の場合は、内野に残っているすべての選手がジャンケンをして、勝敗を決める。
（内野の選手の人数が偶数の場合、外野選手より１名選出して、奇数の人数にする。）
⇒　決勝戦のみ、延長戦（５分）を行う。

８．前半で内野の選手が全員あたって全滅した場合は、相手チームの勝利とする。後半は、練習試合という形で、時間内で終了するならば実施してもよい。

【内野についてのルール】

1．体に当てられればアウトになるが、首から上はセーフとする。

2．内野どうしのパスは反則となり、相手チームのボールとする。

3．当てられたボールが地面に落ちるまでに、本人または味方の選手がそのボールを受け止めれば、すべてセーフとする。

4．一度に２人以上の人がボールに当たった場合は、最初に当たった選手のみアウトとする。

・まったく同時に当たったと審判が判断した時は、２人でジャンケンをさせて、ジャンケンに負けた選手のみアウトとする。

・内野の選手がコート外でボールを受けたときは、セーフとする。但し、ボールは外野（相手チーム）のものとする。

・内野の選手が、コート外で、ボールが当たり地面に落ちた時は、アウトとする。
但し、ボールは転がって入ったチームのボールとする。

・白線から出たボールを取ったと審判が判断したときは、相手チームのボールとする。

【外野についてのルール】

1．外野の選手（開始時の選手も含む）は、相手チームの選手をあてれば必ず内野に入る。ただし、最後の外野の選手は、必ず外野に残らなくてはならない。その外野の選手は得点には加算しない。

2．外野は３方のどこから投げてもよい。外野同士のパスは認めます。

【そ　の　他】

1．故意に時間かせぎのパスをしていると、審判が判断したときは反則となり、相手チームのボールとする。

2．投げたり、受けたりする時にコートの白線を踏んだ場合はセーフとする。超えた場合は、相手チームのボールとする。この時、あてられた人はセーフとする。

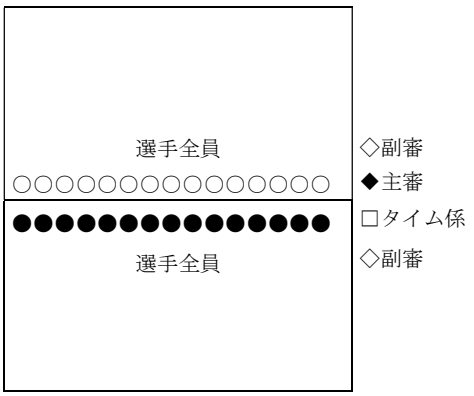
3．質問は、各チームのキャプテンのみとする。保護者は不可。

4．キャプテンのゼッケン背番号は１とします。他の選手の背番号は問いません。

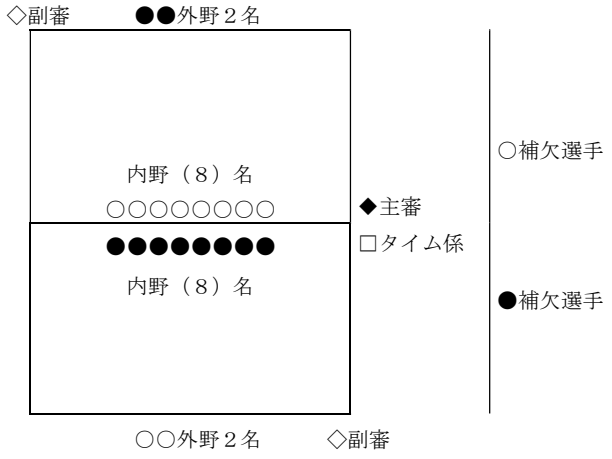
5．低学年の者が、高学年の試合にでることは、不可とする。

【ドッジボール大会　選手・審判　配置図】

◎整列時



◎前半開始時



◎後半は、前半のつづきでスタートする。